

フランス

# リモージュ市の 伝統産業

海外の  
地方自治体

パリ事務所次長 荒木 誠 (東京都派遣)

フランスの地方都市には、ワイン、陶磁器など、積極的に海外に輸出している伝統産業が多くある。しかし、これらの伝統産業では、後継者不足など課題も多い。

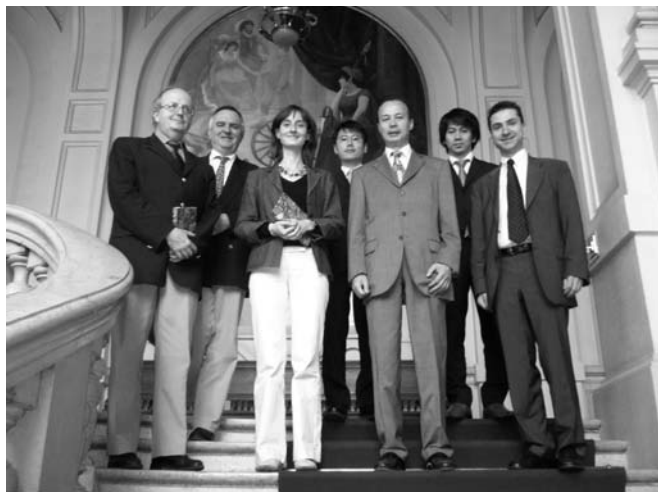
今回は、世界中の多くのファンを魅了するリモージュの磁器を取り上げ、官民一体となった産業振興への取組みを紹介する。



## リモージュ市の概要

リモージュ市は、パリから南に三五〇km、大西洋から東へ二〇〇kmのフランス中央部に位置するリムザン地方の中心都市です。湖沼、森林など、豊かな自然環境は、フランスで最も美しい景観の一つに数えられます。リモージュ都市圏の人口は、約二〇万人で、フランス中西部の、文化、経済、大学の中心地となっています。

リモージュの興りは二〇〇〇年前。「ヴィエンヌ川」の浅瀬に築かれた村落が古代ローマ都市へと発展した時代にさかのぼります。



↑リモージュ市役所を訪問

す。そして中世になるとサン・マルシアル修道院の建設とともに、信仰と文化の要地となりました。一八世紀末に郊外のリムザンで磁器の原料となるカオランが発見されてから、一九世紀に入ると磁器の生産活動は活発となり、地場産業として今日まで市の発展を支えてきました。

リモージュの人々は、フランスの歴史に刻まれるさまざまなヒューマニズム運動に貢献したことで有名です。日本との関係では、二〇〇三年、窯業が盛んな愛知県瀬戸市と姉妹都市になっているほか、一九一四年には、パリに留学中の島崎藤村が、第一次大戦の戦禍を逃れるため、リモージュ市内のマテラン家へ三カ月間疎開したことで知られています。この地で精神の安らぎを得た藤村は、『桜の実の熟する時』の四、五章をはじめ、次々と執筆に励んだと伝えられています。

## リモージュ焼の歴史

リモージュ焼が作られるようになったのは、一七七二年、郊外のリムザンで磁器の原料となるカオランが発見されたからのことです。村人がせっけんとして使っていたものがそれと分かり、ルイ一六世の弟、アルトワ伯爵がリモージュを庇護するきっかけとなりました。

磁器は鉱物の粉末を粘土状に練り上げ釉薬で焼成したものです。素材がガラス質な



↑ベルナルドゥ社第2工場

ので薄くツルツルに仕上がりに、ナイフやフォークを受け付けます。マルコポーロの時代に中国から欧州に伝わりましたが、明から清に変わり中国からの輸出が閉ざされたため、一時、日本の伊万里から輸出し、中国の作品を模倣した伊万里焼が発達しました。日本からフランスに輸出された伊万里焼のうち、柿右衛門だけがシャンティ公のお気に入りだったようです。当時の作品は、国立セーブル陶磁器博物館やシャンティ城内のコンデ美術館で見ることが出来ます。リモージュ焼の特徴は、ポーンチャイナには見られない光を当てた時の透明感です。また、ポーンチャイナは伏せて焼くので皿を横から

見た時、平べったくくなりますが、リモージュ焼ではシェイプに微妙な角度があり柔らかな表情が現われます。

## 遺産経済クラスターの適用による観光産業の振興

リモージュ地方には、磁器製造業者が一九〇社ほどあります。大学教授を兼ねるパスカル・テクシエ、リモージュ市遺産担当助役は、「手工業に求められるものは、産業を観光資源として捉え、伝統技術のノウハウをどう継承させ、その上で経済的な利益をどう上げるかだ」という点を強調しています。

磁器産業は過去一〇年間、価格競争力などの点で、深刻な危機に見舞われました。職人の高齢化、後継者不足、若者の教育という三つの問題に直面したほか、リモージュ焼の名は知られても、製造業者はあまり知られていないというブランド力の弱さもありました。このため、市では一〇年前から、窯業をテーマとした博物館を作り、各企業が工場に観光客を受け入れて見学できるようにするなど、さまざまなプランを進めるとともに、旅行者を市の中心に誘導するため、駅と市役所、二つの美術館がクロスする道路沿いに店舗を優遇して配置するなど都市計画にも配慮しました。その結果、現在では観光客の七〇%以上が磁器を目当てにリモージュを訪れるようになりました。

その推進力となったのが、PEEP / Pole

d'économie du patrimoine (遺産経済クラスター)の適用です。PEEPは、Datari (国土整備地方開発庁)によって一九九五年に始められたもので、一定の企業を取りまとめ、さまざまなアクションプランを実施するための公的資金援助です。主に農村を開発するためのものでしたが、民間企業への直接援助の途を開くため、リモージュ市では、一九九八年にこの制度を磁器産業を中心とした都市開発に適用し、フランス国内で唯一の都市における遺産経済クラスターとなりました。

補助対象としては、工場の中に観光ルートを作ったり、古い工場など歴史的遺産を修復する場合のほか、観光客への演出方法や広報なども該当します。新しい産業観光ルートができて工場での即売など新たな市場が増えたことにより、この一〇年間で製品の売上は大幅に伸びました。

磁器産業の当面の展開としては、第一に、インターネットでの販売充実です。例えば、一九、二〇世紀の復刻版を数量限定で商品化して汎用品と別に直接販売するなど商品の付加価値を高めていくことが求められます。第二は、人材の育成です。最近のリモージュの特徴としては、アート分野の職人が増えていることから、市内に若い職人のインキュベーション施設を整備し、二、三年間、独り立ちするまで低家賃にてアトリエを提供するような施策を進めています。第三は、新市場の開拓です。イタリア、ロシアなどの

新市場を開拓するとともに室内装飾分野にも進出し、セラミックによる住宅関連設備の新商品開発も進められています。

## 産業クラスターによる 先端技術の開発と職業教育

リモージュ市では資金援助により伝統産業を保護育成する一方、先端技術の開発にも力を入れています。セラミック産業のテクノポール（産業クラスター）ESTER Linges Technopoleでは、リモージュ焼の国際的、国内的な知名度向上のため、磁器の製法について競争力ある新技術の開発を政府の主導により官民合同で研究しています。最近の研究では、レーザーをつかった絵付けや、常温で製造し焼かなくても自然にできあがるコールドセラミックの開発、可塑性、流動性の高い粘土の開発などに実績があります。

技術開発を進める一方、職業教育も重要なテーマです。県手工業会議所のティエーリ・ロシェ事務局長から職業教育の話をお聞きしました。手工業会議所（Chambre des métiers）は、小さな手工業者、職人を管轄している会議所（商工会議所は手工業者を管轄）で、従業員が一五人までの会社約六〇〇社が加入しています。

手工業界では日本と同じように、職人の高齢化、後継者不足、若い見習工の定着、教育不足が問題となっています。そこで現

在フランスで行われている職業教育は二種類あります。一つは国が行うもの、もう一つはAPPRENTISSAGE（アプランティサージュ／親方見習いシステム）で、ヨーロッパではドイツとフランスのみで行われています。この仕組みは、一六〜一八歳の若者を対象とし、二週間職業訓練所で理論を学び、二週間親方のもとで実地訓練を行うものです。ディプロマ取得には二年を要します。月約三〇〇ユーロの手当を親方が払い、州は年間一五〇〇ユーロ程度、それに対する直接補助を行っています。アート分野のアプランティサージュは、最近、人気が高く、入門者への親方からの評価もますますのようです。



↑1944年6月10日に一瞬で廃墟と化したオラドール

## 地元メーカーが オラドールの復興に貢献

地元メーカー、ベルナルドゥ社、天野さんの案内でリモージュ郊外、オラドール村にある第二工場を視察しました。オラドールは、一九四四年六月一日、ナチスにより村人六四四人が虐殺された悲劇の場所です。その惨劇から奇跡的に生き延びた一人の証言が後に伝えられ、ドゴールにより、廃墟の街は、学校、カフェ、お店、車、掛けかけのミンなどが焼かれたまままで当時の凄惨な姿を残しています。ベルナルドゥ社は一八六三年に創業。ナポレオン三世時代に第一工場を建設しましたが、企業経営者は地元貢献への使命に燃え、一九七〇年代に、村民虐殺という悲しい歴史のあったオラドールに、あえて工場を建てて街の復興に貢献しました。これが現在の第二工場です。輸送費など企業コストはかかっても、雇用を促進し、村への回帰を促すといった企業哲学により、地元の人を大切に同社の精神は、多くの人々に理解され、今もなお受け継がれています。